

平成 28 年度の予算編成へ、会派改進黨・市政要望を提出

市民の意見を尊重しながら、市民のための市政の実現を目指します！

市議会は、「市長の応援団であつてはならない、是々非々の議論をすべきだ」という、市民からの厳しい批判が起つています。議会は、市長の提案に市民の意見を把握し又、市民の意見を尊重



山陰地方の都市人口10万人以上の市で、議員定数26は、最も少ない市議会です

1、予算編成について

予算編成は、一年間の収入と支出の総計をもつて、編成することとを法は定めています。

市税、国・県の負担金等の財源を収入に加えますが、他会計からの借入金、収入になりません。市は、他会計からの借入金を精算せずに、予算編成を従来から行っています。

又、商工業振興の貸付資金を一般会計予算に組込んでいます。この収入財源が、不透明です。☆財政健全化にむけて、これらの、修正を求めています。

重して、市長と議論を尽くし、議員同士の合議をもつて、議会の意志を決めることが求められます。改選後、一院クラブを改め、議会会派・改進黨を結成し、議会の活性化をめざしています。

2、剰余金の積み立て

前年度決算の剰余金は、二分の一以内を積立金にすることを法は定めています。

市は、前年度の剰余金を、翌年度予算でほとんど使っています。

☆財政基盤の確立に、積立てすることを求めています。

3、市借地料の適正基準を提起

市は、借地料更新にあたって、適正基準を設けず、不動産鑑定も九年前に一度実施しただけです。

☆不動産鑑定は三年毎に、鑑定料も折半の方法を求めています。

下水道認可区域の合併浄化槽の設置に、

（平成28年度実施）
「補助金」を助成します。

今まで、下水道事業の認可区域内（中海区域を除く）の合併浄化槽の補助金は、国の補助金を受けられないために助成を見送っていました。しかし、議会の議論を踏まえて、平成28年度から

補助金の助成をします。

助成は、認可区域の指定から7年経過しても、下水道整備ができていない区域を対象とします。

財源は、県の助成制度を活用することになります。

4、市道安倍三柳線の事業推進にむけて

同事業は、浜橋（米川）から通称・産業道路までの430m区間を、平成31年度までに供用開始を目指す計画です。

事業費は、設計費・測量費・用地費等計上されていますが、担当課の人手不足から、用地費等の予算の繰越が起つています。

☆担当課の体制を見直し、事業の進捗を求めています。

同事業は、新・県道東福原・樋口線の改良事業と、連動した事業効果が求められています。インフラ整備は、地域経済の活性化と民需を誘発します。



5、下水道基本計画の再検討

同事業の借金残は、約 370 億円を抱えています。使用料は、年 19,5 億円。元利返済は、年 30 億円を支払っています。

未整備地域の推定事業費は、400 億円強が見込まれ、財政負担は増えます。

人口減少を見通し、少子・高齢化の進行と財政状況を踏まえ、「代替案」を含めた基本計画の再検討を求めています。

6、保育料の軽減を！

市の保育料は、周辺の自治体より「高い」という批判があります。又、施設に預けられない児童も増えています。

☆保育料の軽減と待機児童の環境改善を求めています。

7、児童、生徒の熱中症対策

気象変動は、教室（小・中）の温度が30度以上を記録する等、児童・生徒の学習度や身体に深刻な影響をもたらしています。

☆小、中学校の全教室に、「エアコン」整備等、教育施設の改善を求めています。

（本誌は、議会政務活動費を活用）